

重点施策点検・評価表

2-1-1

基本目標			
2	ふるさとに根ざし、自立の気概と能力を培う学校教育の創造		
重点施策			
1	ふるさとキャリア教育を通して、おおだて型学力の育成に努める		担当課(館)
	① 学校訪問指導の実施		学校教育課
	活動内容	おおだて型学力を鍛える授業の視点で、適切な指導・助言を行う。	
	点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (達成率100%超) (95~100%) (80~94%) (80%未満)	
	点検評価	北教育事務所長訪問の同行、指導主事による学校訪問、教育委員訪問、市教育研究会総合研で授業を参観しての指導助言を行った。また、おおだて型学力推進委員会便りの発行により、随時、取組の進捗状況を共有した。各校とも、全教科において「アクション」「シンキング」「チームワーク」の視点を指導案に明示するなど、実践に取りかかった年となり、モデル的な授業が各校に見られるようになった。	
	課題等	おおだて型学力を育成する授業のイメージができてつつあることから、学校や教科の枠を越えて、広げていく。	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
	学識経験者等の意見	「ふるさとキャリア教育」の土台を築き上げて提示している点、「おおだて型学力」の意味を明確に示している点がすばらしい。教職員の受け止め方がそれぞれ違って当然である。大切なのは、「ふるさとキャリア教育」「おおだて型学力」のイメージを共有し、教職員それぞれが分からないことを出し合いながら、個性を生かして実践していくこと。個の力が組み合わさることで、チームとしての総合力が向上する。	
	② いじめ・不登校対策事業の実施		学校教育課
	活動内容	いじめ防止基本方針を浸透させる取組、他機関との連携を推進するとともに、研修会等を実施し、未然防止に向けた体制を構築する。	
	点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (達成率100%超) (95~100%) (80~94%) (80%未満)	
点検評価	いじめ件数については、児童生徒の自己申告をすべて挙げていることから件数は多いが、解決まで継続して聞き取り調査をして指導・援助している。深刻な事態については、スクールカウンセラーや心の教室相談員を活用するなどネットワークを生かした対応をしている。H27年度3月のいじめ調査では、中学3年生が0件である。不登校については、おおとり教室にカウンセラーと教育支援員を配置し、在籍校との連携をとりながら対応している。また、看護福祉大学生がボランティアで活動に参加する体制もできた。家庭との連携が必要な深刻な事案については、子ども課・少年相談センターが継続して対応している。		
課題等	H28年度は、大館鳳鳴高校定時制課程に開設されるスペーススイオとの連携体制を構築する。市独自の取組である毎月の10日以上欠席者調べ、年3回のいじめ調査の結果を分析し、積極的に関係機関へつなぐ機能を強化する。	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度	
学識経験者等の意見	教育委員会のいじめや不登校の「数」のみにとらわれない姿勢が信頼され、現場の数字につながっている。いじめは「ある」ことを前提にして取り組むことは当然であるが、小学校低学年がいじめの自己申告をしても、成長と共にいじめとそうではないことの判断ができるようになることも、人間的な成長と言える。おおとり教室は、待っているだけでなく積極的に復帰に向けた取組、学校とつなぐ役割をしているので、これまで以上に機能していると思われる。		

重点施策点検・評価表

2-1-2

基本目標			
2	ふるさとに根ざし、自立の気概と能力を培う学校教育の創造		
重点施策			
1	ふるさとキャリア教育を通して、おおだて型学力の育成に努める		担当課(館)
	③ 大館市の未来を切り拓くための「人間的基礎力」「大館市民基礎力」「大館市民実践力」の育成		学校教育課
	活動内容	第8次学力向上対策3カ年(平成26年～平成28年)2年目である。昨年の成果を踏まえつつ、さらなる充実を図る。	
	点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (達成率100%超) (95～100%) (80～94%) (80%未満)	
		第8次学力向上に関する提言は2年目を迎え、教職員の理解が広がり、各校、各組織が実践に取り組み始めた。おおだて型学力推進委員会において、この取組をさらに進めたいとの協議により、提言期間を3年から5年に延長することになった。 全国学力学習状況調査において、数値的学力は小学6年生は全国比112.3、中学校3年生は全国比で112.7と良好であり、活用のB問題が伸びている。加えて、質問紙から特に中学生の規範意識、地域行事への参加、社会貢献への思い等「大館市民実践力」の育ちがうかがえる。	
	課題等	H28年度は、中間評価の年となることから、これまでの成果と課題を明らかにして、今後の取組つなげる。	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
	学識経験者等の意見	近年、中学生の学力が伸びてきているというのは、小学校段階からの積み重ねが本物になっている証拠として評価したい。量的に存在するものは、数的にも測定できると言われる。点数だけにこだわるわけではなく、結果として見えてきた数値を子どもや教師に評価として戻し、その努力を認め、自信につなげてほしい。	
	④ ALT・外国語活動支援員による外国語活動支援の実施及び教員の外国語活動・英語教育にかかる資質の向上		学校教育課
	活動内容	ALT・外国語活動支援員を有効に活用するとともに、県等の研修を活用しながら、個々の教員の資質を向上し、児童生徒の英語力・コミュニケーション能力の向上を図る。	
	点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input type="checkbox"/> 目標どおり <input checked="" type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (達成率100%超) (95～100%) (80～94%) (80%未満)	
児童生徒に指導する教員は、県教育委員会主催の研修会に参加し、資質向上を図っている。 ALT・外国語活動支援員・社会人卒教師(一中・桂城小・城西小)を活用し、外国語活動の充実が図られている。特に、社会人卒教師は、小学校の学習内容との連携を図り、1月の教職員研究実践発表会でその成果を周知することができた。 中学校の英語の学力については、NRTでH26年度の中学1年生が全国比50.9がH27年度には中2で52.3と伸びている。しかし、県の学習状況調査では、H27年度中2は、全県平均よりも正答率が低い状況にある。(県67.3 市65.0)。中1は、県よりも1.6P上回っている。			
課題等	H28年度は、外国語活動支援員を1名増置するので、小学校の外国語活動の一層の充実を図る。社会人卒教師(一中)が、桂城小・上川沿小にも派遣になることから、実践をさらに広げる。 中学校に、大館初の英語の教育専門監が配置になったことから、英語教諭の資質向上につなげる。	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度	
学識経験者等の意見	言語の獲得には小さい頃から耳を慣らすことも関係しているかもしれない。小学校の英語活動が教科になることを踏まえて、専門的な研究を深める等、次期の学習指導要領に対応する準備も必要になると考えられる。		

重点施策点検・評価表

2-2

基本目標			
2	ふるさとに根ざし、自立の気概と能力を培う学校教育の創造		
重点施策			
2	地域と一体になった学校づくりを推進する		担当課(館)
	① ふるさとキャリア教育を根幹とした特色ある学校経営の展開		学校教育課
	活動内容	各校のふるさとキャリア教育の取組をより充実・発展させるとともに、地域資源の教科の中での有効な活用を進める。	
	点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (達成率100%超) (95~100%) (80~94%) (80%未満)	
		各校の百花繚乱作戦は、各校それぞれに成果が見えるようになってきている。H27年度はふるさと授業賞を創設し、城南小のふるさとCMづくり、長木小のエゾタンポポの絵本、東中の国語科「おおだての細道」を表彰した。中学校においても教科の中で、地域の教材を単元化した授業が試みられるようになった。	
	課題等	地域の学習材や人材が、まだ授業に生かせる余地があることから、生涯学習課と連携しながら、人材名簿の活用等を図っていく。 また、地域と一体になった教育活動を一層進めていく。	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
	学識経験者等の意見	学校から一步離れて地域を見ると、その良さが非常によく分かる。子どもが、登下校の見慣れた風景とは違った地域に気付くことができる教育活動は大事である。自分のふるさとが見えてくることが、ゆくゆくはふるさとへの愛着に変わっていく。ふるさとキャリア教育という望ましい手法で教育が展開されている。	
	② 学校評価の見直し及びさらなる充実		学校教育課
	活動内容	校長会と連携しながら学校評価一覧表を見直し、大館市が目指す教育の方向と合致したものにす。また、学校評価と人事評価の連動させ、職員の経営参画意識を高め、学校経営の充実につなげる取組を継続する。	
	点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input type="checkbox"/> 目標どおり <input checked="" type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (達成率100%超) (95~100%) (80~94%) (80%未満)	
校長会において、学校評価一覧表を見直し、全小・中学校が、ふるさとキャリア教育が見える様式で取り組んだ。 学校関係者評価においては、評価指標の1つにふるさとキャリア教育を入れており、外部からの評価を得て、学校経営に生かしている。 評価の作業には、教職員も携わることにより、一人一人の学校経営改善の意識が生まれている学校もあるが、まだ全体ではない。			
課題等	学校評価一覧表の様式を示したが、全校が改訂になっていないので、H28年度は再度、周知する。学校評価(前期・後期)は集計や報告書作成の体制は、各校によってやり方がまちまちであり、それによって職員意識にも差が出てくる。	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度	
学識経験者等の意見	市の重点となっているのだから、全小・中学校が同じねらいで取り組める様式も大事である。学校の自己評価表を見る機会があったが、情報量が多く、読み取る方も、表す方も大変だ思う。評価に忙殺されることは避けたいが、効果的な活用に力点があることを認識したい。管理職だけではなく、関係職員が一人一人自分事として関わること、自分達が頑張ったことが評価表にも表れるような視点をもつことが学校経営の一層の充実につながる。		

重点施策点検・評価表

2-3

基本目標			
2	ふるさとに根ざし、自立の気概と能力を培う学校教育の創造		
重点施策			
3	実践的指導力を高める教職員研修を推進する		担当課(館)
	① 授業力向上を目指した研修の充実		学校教育課
	活動内容	児童生徒に「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を確実に身に付けさせるための授業改善に向けた研修会を継続して実施する。また、新たに導入するタブレット端末が、授業の中で道具として有効に活用されるよう全職員を対象に研修会を実施する。	
	点検評価	<input checked="" type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満) おおだて型学力については、4月の市教育研究会総会においてリーフレットを配付して全教職員に説明、7月の教職員夏季研修会では、「おおだて型学力」を鍛える授業について解説した。1月の教職員実践発表会では、20の研究発表があり、先進的な実践を教職員間で共有した。小学校のタブレットPC導入に関わり、ICT活用研修講座は例年の2倍以上の参加者があり、IT機器活用への意欲が高まり、実際に各小学校の授業ですぐに活用が始まった。(6講座開催で247人)	
	課題等	H28年度は、全中学校にタブレットPCと電子黒板が導入となるので、中学校向けの実践的な研修を計画する。	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
	学識経験者等の意見	パソコン＝学力とは結びつかないと思うが、それを活用してどう学習するかが大事である。タブレットなどのICT機器は、子どもが主体的に関われるよさがある。教職員がまず研修を積んで、有効に活用できるよう進めてほしい。	
	② 幼保小中高大のさらなる連携及び地域社会、産業界との連携の推進		学校教育課
	活動内容	現在行っている教育懇談会を短大及び大学の校長・学長にまで枠を拡大し、縦の一貫性をより強めるとともに、子どもハローワーク等で、職場体験、地域ボランティア、地域行事への参加を推進し、「学社融合連鎖反応」をより活発にし、地域を活性化する新たなエネルギーを生み出す。	
	点検評価	<input checked="" type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満) 教育懇談会の協議により、高校生の子どもハローワークへの参加、看護福祉大学との共同事業を実施した。特に、秋田職能短大と連携して4年間取り組んできたロボット人財育成では、小学生が全国大会で優勝する成果もあった。1月のふるさとキャリア教育フォーラムでは、高校生や比内支援学校の発表もあり、全教職員が校種間連携の有効性を実感することができた。企業や地域の協力を得て、休日に職業体験ができる子どもハローワークの取組では、2254人の児童生徒が体験し、その実績により博報賞を受賞した。	
	課題等	H28年度文科省・県教委委託事業を活用して、おおだて型学力の「人間的基礎力」の育成を担う就学前教育の充実と小学校低学年へのなめらかな接続の体制を構築する。(～H30) 地元志向の児童生徒を実際の地元就職に結び付けるためには、出口となる高校との連携と、産業界との連携により、児童生徒や保護者に情報を提供していく。	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
学識経験者等の意見	市に大学があることは、大館市の教育環境の大きな強み。ロボットコンテストの成果は、そのよい例である。大学があったからこそ、そのような経験が可能であり、子どものすばらしい成長にもつながった。大館の教育環境で子どもが自信を得たことを自覚したとき、大館に自分の力を役立てたいという気持ちも生まれると思う。大館のすばらしさを広い視野で伝えられるのは、いったん地元を離れながら大館に就職した人であり、教師もその一人である。子ども達に、人間が成長する環境がふるさとにあることに気付かせ、ふるさとを担う選択は子ども自身でできるようにさせていくことが大切である。		

重点施策点検・評価表

2-4

基本目標			
2	ふるさとに根ざし、自立の気概と能力を培う学校教育の創造		
重点施策			
4	児童生徒の育成に資する教育環境の整備を推進する		担当課(館)
	① 学校教育環境適正化の推進		学校教育課
	活動内容	北陽中学校については、今後の統合に向けてモデル的役割を果たすと考えられることから、支援を継続していく。また、第2次学校環境適正化計画の策定に向けて、基本方針・適正化委員会の組織について検討する。	
	点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input checked="" type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)	
	点検評価	統合1年目の北陽中学校は、当初の3地区保護者の意識や感情の温度差、生徒の適応力の差による課題も抱えながら1年をかけて、大館市の中学生のモデルとなるレベルまで到達している。学習集団が大きくなったことによる成果が生徒の態度、地域貢献の姿勢、学力にも表れている。財政的な支援も継続。 次期、学校環境適正化については、高校の統合とも相まって、地域住民の感情を考慮して、具体的に進めていなかった。	
	課題等	H28年度は、第2次学校環境適正計画を検討する委員会を立ち上げ、2月末までに市としての方向性をまとめる。そのための委員の選定、委員会の開催、情報収集、提言の作成に取り組む。	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
	学識経験者等の意見	統合の問題は、本来、子どものことを中心に据えて考えていく問題である。しかし、保護者や地域の思いもあるので簡単には進まない。学校の適正規模というのは、部活動存続だけではなく、様々な考えを広く交流し合える環境を保障できるかなどたくさんの視点がある。小規模でもすばらしい教育活動をしている学校ばかりであるが、その力があるうちに統合した方がよいという考えもある。市としてこれから先のプランを提示しながら、保護者や地域と共に進めていくべき課題である。	
	② 児童生徒の快適な学校生活を保障する施設・設備の点検・改善		学校教育課
	活動内容	一人一人の児童生徒が、自己存在感、自己有用感をもつことができるような教室環境の整備に向けて、指導・支援する。	
	点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)	
点検評価	小学校と中学校の連携が定着し、中学校の教室環境が格段に改善されている。特に、一人一人を大切にしたい掲示、友達同士でアドバイスや認める言葉を加筆した学習カードなど、生徒指導の機能を生かした掲示や教室環境になっている。		
課題等	十分達成されたと認められることから、今後は財政面の工夫をしながら、時代に即した教育環境の整備に取り組んでいく。	取組の方向性 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度	
学識経験者等の意見	掲示物や施設・設備面でも良好な状況にあるのは、生徒の生活が落ち着いていることにつながっている。教育環境は整頓され清潔で、美的にも美しくありたい。それは、教育環境が子どもの心を育てるからである。去年は、路上で中学生の交通ルールの守り方に感心することがたびたびあった。教育環境と子どもの心の育ちは相乗効果があるので、今後もよい学習環境の整備に努めてほしい。		